7/6（土）

マルコによる福音書三章1～12節

人を解放する安息日

そして、人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。」（4）

片手の不自由な人を前にした主イエスが、全ての労働が禁じられていた安息に癒やしのわざをされるかどうか、人々は注目していました。主イエスはその人を癒やすことを通して、安息日の本来の意味を回復しようとされました。安息日は単に仕事を休むだけの日ではなく、神を礼拝することによって神の命が注がれ、憩いを得る日です。ところがファリサイ派の人々は、律法によって人々を縛り上げていたのです。神が安息日を定められたのは、エジプトの地で奴隷となっていたところから解放された恵みを繰り返し味わうためでした。神によって「休め」と命じられなくては、神を礼拝することさえ忘れて、この世のことに没頭する私たちではないでしょうか。私たちが真に健やかに生きることを願って、主は「働きの手を止めて神を礼拝しなさい」と愛をもって勧めてくださるのです。